

8. 広報活動

1. はじめに

大型放射光施設（SPring-8）の学術の発展と産業振興への貢献に対する国民の理解を得るとともに、放射光利用者の裾野拡大に資するため、広報活動を通じた的確な情報発信は極めて重要である。2007年度も前年度に引き続き、放射光利用の研究成果、利用者の支援活動、施設の運転状況、機器開発・高度化情報など、SPring-8における活動情報の分かり易く、タイムリーな発信に努力した。具体的には、①プレス発表、取材対応などマスメディアへの情報発信、②パンフレット、広報ビデオなど広報資料・映像の制作、③ホームページの管理運営、④見学者の受付及び案内、展示室の運営などの見学者受入れ、⑤施設公開、高校生のためのサイエンス・サマーキャンプ、展示会出展など各種広報行事の開催、などを実施した。

2. マスメディアへの情報発信

2-1 プレス発表

SPring-8を利用した研究成果や施設公開等のイベント情報などを東京、大阪及び地元兵庫のマスメディアに対して発信した。2007年度の発表件数は25件（記者会見8件、資料配付17件）で過去最高であった。

その中でも特に、東京工業大学の細野秀雄教授らによる発表「セメントを金属に変身させることに成功」、愛媛大学の入船徹男教授らによる発表「世界初！マントル深部の高温高圧条件下で地震波速度精密測定に成功」は社会的関心も高く、それぞれ10社以上の紙面で取り上げられた。

2-2 取材対応

新聞、テレビ、雑誌などのインタビューや写真・映像撮影など、関係者がSPring-8を直接訪れて行う取材への対応である。それらの対応件数は、2002年度47件、2003年度22件、2004年度25件、2005年度27件、2006年度33件であったのに対し、2007年度は51件であった。2007年度の内訳は、新聞26件、雑誌などの出版物6件、テレビ13件、ビデオ・DVD制作4件、映画撮影のロケーションハンティング1件、映画撮影1件であった。

件数が本年度大幅に増加したのは、SPring-8供用開始10周年及びその記念式典に関連した取材が十数件あったことによるものである。新聞各社は、SPring-8供用開始10周年に合わせて、10年間における産業利用の伸展や研究成果などを報じた。

8月27～31日までの5日間にわたって、A中央扉前、B

3扉前、研究交流施設、実験ホールなどにおいて、角川映画「神様のパズル」の撮影が行われた。台風シーンを再現するなど大規模の撮影であった。原作の同名SF小説はSPring-8をモデルにして書かれたものであるため、SPring-8での撮影シーンが数多く登場するものと予想され、SPring-8にとっても宣伝効果が大きいものと期待される（本映画は2008年6月に公開された）。

2007年12月と2008年1月に発生した中国製毒ギョーザ事件の毒物メタミドホスの異同識別に関する電話問い合わせや取材申込が、1月末から2月初旬にかけて、新聞各社、テレビ各局から20数件あった。しかし、メタミドホスの異同識別は他所で行われたため、SPring-8で取材が行われたのは、フジテレビの報道番組1件にとどまった（テレビ局の都合で放映はされなかった）。

報道関係者との交流の一環として、8月1日、地元紙である神戸新聞社の編集局・論説委員会・情報技術局・広告局・姫路支社の管理職、局員、記者ら40名を招待してSPring-8見学ツアーを実施した。理事長挨拶、SPring-8及びXFELの概要説明、加速器収納部見学、実験ホール見学の後、質疑応答を兼ねた懇話会を開いた。これにより、地元新聞社によるSPring-8及びXFELへの理解が深まった。今後、特定の新聞社に限らず、プレス関係者との交流の場が必要と考えられる。

3. 広報資料の制作

広報資料としては、和文広報誌「SPring-8 NEWS」、SPring-8パンフレット（和文・英文、三つ折り和文）、SPring-8リーフレット（1枚もの和文）、普及棟展示室案内パンフレット（和文）、SPring-8紹介ビデオ、SPring-8関連の写真・映像、研究成果などの各種パネルなどがある。

2007年度は、SPring-8パンフレット（和文）は4回、SPring-8パンフレット（英文）は2回改訂増刷を行った。また、「SPring-8 NEWS」については、編集委員会において編集方針、記事企画、校正などの業務を遂行し、広報室が編集委員会事務局を担当して、隔月誌として年6回発行した。2008年1月号（No.36）は、SPring-8供用開始10周年記念企画号として、（財）高輝度光科学研究センター（JASRI）理事長へのインタビュー記事を掲載した。

SPring-8供用開始以来10年間に得られた産業利用成果の中から、実用化や製品開発につながった利用成果事例を16件選び、「研究成果の内容がわかりやすいこと」、「読者に強いインパクトを与えること」を方針として、「SPring-8

産業利用成果パンフレット」を編纂した。本成果集は、SPring-8供用開始10周年記念式典や産業利用報告会などの会合の参加者、SPring-8の見学者に配布されたほか、文部科学省や国会議員の関係者、関連企業の経営層にも配布され、産業振興に対するSPring-8の貢献を理解して頂く一助となった。

供用開始10周年に因み、10年間にテレビ報道された研究成果やSPring-8で行われた行事などを記録した映像を編集し、SPring-8の10年の歴史を辿る内容のDVDを制作した。SPring-8供用開始10周年記念式典において、JASRI理事長の講演の中で放映された。

4. ホームページの管理運営

ウェブは極めて重要な広報手段の一つである。2001年度から広報室がSPring-8ホームページ (<http://www.spring8.or.jp/>) の管理・運営を所管し、WWW編集委員会の事務局も広報室に置かれている。2006年2月に公開された新SPring-8ホームページは、Zope (ゾープ) というオープンソースのソフトウェアでプログラムされた動的ホームページである。本改訂において実装された「利用事例データベース」は、アクセス件数も多く、国内外の研究者からの事例に関する問い合わせメールが2006年度で52件、2007年度で47件あった。これらの問い合わせメールは、利用業務部に自動転送され、利用業務部で内容に応じて責任者(利用研究促進部門長及び産業利用推進室長)に振り分けられ、責任者が直接問い合わせ本人に回答するシステムとなっており、極めて有効に機能している。本データベースは、新規ユーザーを掘り起こすという当初の目的を十分に果たしているものと推測される。

ホームページをさらに充実させるため、2007年度はWWW編集委員会を7回開き、コンテンツやウェブシステムの不具合や不備の改善、今後のウェブの運営方針や管理運営体制の検討などを行った。2006年の改訂ではコンテンツ全体の構成が利用者・研究者を重視したものとなっていたため、一般向け情報を充実させる第一段階として、青少年を対象とした放射光科学啓発のためのサイト「キッズ・ページ」において、4コマ漫画「エイトハカセ」の連載(週刊)を2007年4月から開始した。2008年2月からは、英語版「エイトハカセ」の連載も始まった。キッズ・ページは読者からの反響も大きく、今後重要となるアウトリーチ活動の一環として先駆的な役割を果たすと期待される。また、本改訂においては実現されずに懸案事項となっていた「研究系職員検索機能」についてもWWW編集委員会で検討を重ねながら準備を進め、2007年度内にシステムの実装を完了し不具合の洗い出しを行った。個人情報に関わる問題が発生しないように総務部人事課と協議をしながら人事上の手続きを進め、2008年度に公開する見通しとなった。さらに、ウェブサーバーの応答のスピードアップを図るた

め、ハードウェア及びソフトウェアの両面におけるウェブサーバーシステムのアップグレードを、所管部署である制御・情報部門が実施した。

2007年度におけるコンテンツの更新頻度は、日本語ページ及び英語ページ合わせて565件(月平均47件)であった。「プレスリリース・トピックス」欄に掲載されたJASRI及びユーザーの研究成果に関わるプレス発表記事は34件であった。SPring-8の定期刊行物(SPring-8 NEWS、SPring-8 Research Frontiers、SPring-8 利用者情報、SPring-8年報)のほかに、SPring-8パンフレット改訂版(日本語版・英語版)がオンライン発行された。

5. 見学者の受け入れ

5-1 見学者の受け付け及び案内

2000年に放射光普及棟が開設されて以来、年末・年始を除いて原則として毎日見学者を受け入れている。2007年度には、施設公開日の来訪者(3,449人)を除いて1,623件、15,047人の見学を受け付けた。これまでの来訪者の推移を図1に示す。1997年の供用開始以来、見学者の数に大きな変化はないが、通常の研究施設として年間2万人もの見学者を受け入れている施設はあまり例がないと思われる。

2007年度は、通常平日に実施しているツアー見学の希望者が土日祝日に多くあった(24件、984人)。これにより円滑に対応するため受け入れについての運用マニュアルを作成し、これに沿って2008年度より実施するための準備を行った。

また、ツアー見学の標準コース(SPring-8概要説明、PRビデオ視聴、展示室、蓄積リング棟見学者ホール)以外の場所の見学要望が多かった。特に、将来のユーザーにつながるとされる「企業」(2006度:55件886人、2007年度:82件955人)など、産業利用ビームラインの見学を希望する団体が増加したため産業利用推進室と協力し対応を行った。

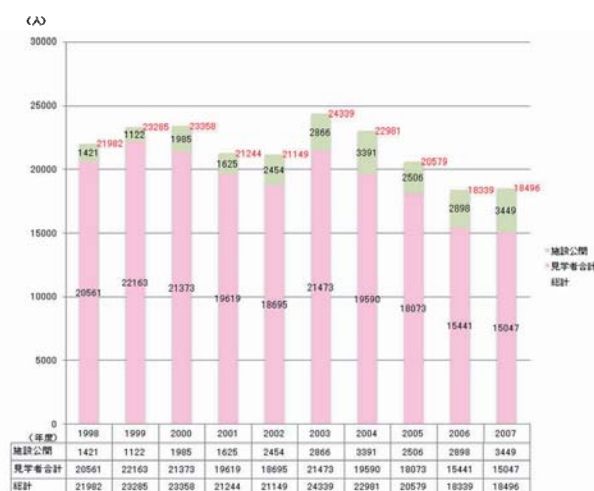


図1 見学者数の年次推移

5-2 展示室の運営

展示品の充実を図るため、2007年度は、電子加速器や蓄積リングにおける4極電磁石、偏向電磁石の機能を説明するための模型（電子ビーム模型：図2）を製作・設置するとともに、SPring-8標準型2結晶分光器（図3）の設置を行った。



図2 電子ビーム模型



図3 展示室に設置されたSPring-8標準型2結晶分光器

電子ビーム模型については、その機能に適った特殊形状の真空封止型の電子管（ブラウン管）を採用することにより、真空ポンプで常時排気する必要がないため、騒音が発生せず、コンパクトな展示品として相応しいものとした。コストをできるだけ抑えるため、他の構成部品は可能な限り市販品を採用した。本模型は放射光を専門としない見学

者に「分かり易い」と好評で、隣に設置してある第二世代の放射光装置“SOR-RING”とともに電子ビームの輸送と放射光発生の仕組みを説明する上で重要な役割を担っている。

SPring-8標準型2結晶分光器については、広範囲の波長を含む放射光から特定の波長のX線を取り出す「単色化」の方法を説明するため、不用になった廃棄予定のものを展示品として有効活用することとした。分光器チャンバーのステンレス製前扉は取り外して透明アクリル製に交換し、分光器内のシリコン単結晶に白色ビームが当たった跡がカーボンの汚れとして目視できるなど、中身が一目で分かるよう改造を加えた。

また、SPring-8の学術利用、産業利用における研究成果の内容を分かり易く紹介する展示パネルの更新も適宜実施した。

6. 広報行事

6-1 施設公開

4月22日（日）、科学技術週間にちなんで、15回目となる施設公開を（独）理化学研究所及び（財）高輝度光科学研究センターの共同主催で行った。当日はあいにくの雨模様であったにもかかわらず、来場者数は過去最高の3,449人であった（図4）。

2007年度は蓄積リング棟（実験ホール、加速器設備）、X線自由電子レーザー試験加速器等に加えて、新たに「生物系特殊実験施設」を公開した。当該施設では高性能電子顕微鏡を用いて生体分子の様子を実際に観察できるなどの内容で、大人から子供まで幅広い層に好評であった。

また、新しいイベントとして「写真コンテスト」を実施した。施設公開の様子を撮影した写真を募集対象とし、多くの応募作品の中から審査員によって選ばれた優秀作品に対して賞状と記念品を贈呈した。入選作品はSPring-8ホームページ上とSPring-8放射光普及棟に展示され来場者の目を楽しませた。

その他の各会場でも、科学実験・実演、工作教室、講演会及び見学ツアーなどが行われ、施設公開は盛況のうちに終了した。



図4 施設公開の様子

6-2 高校生のためのサイエンス・サマーキャンプ

本サマーキャンプは、高校生が体験実習や研究者との交流を通じて科学技術に関心を深めてもらうことを目的として行われるものである。2007年度は8月8～10日の3日間にわたり、兵庫県下の高等学校の生徒を対象に（独）理化学研究所、（財）高輝度光科学研究センター及び（財）ひょうご科学技術協会の共同主催で実施した。参加した高校生は17名で、4つの班に分かれて、「波の性質」、「磁気情報」、「光通信」、「物質の構造」の中から1テーマを選んで実習に取り組み、最終日には実習結果の発表を行った（図5）。併せて、X線レーザーに関する講演の聴講、SPring-8の見学、西はりま天文台での天体観測を行った。



図5 サイエンス・サマーキャンプで体験実習をする高校生

6-3 高校生のためのサマー・サイエンスセミナー

本セミナーは、兵庫県の高校生を対象とし、科学講演の聴講と播磨科学公園都市にあるSPring-8、兵庫県立大学理学部、先端科学技術支援センターなどを見学する企画である。2007年度は8月11日に実施し、合計240名の高校生が参加した。ひょうご環境体験館博物館学芸員田先崇志氏による「科学力を育み、地球環境を守ろう!!!」と兵庫県立大学教授八田公平氏による「脳や神経はどのようにして作られるか？」の2つの講演のあと2班に分かれて、SPring-8及び兵庫県立大学の見学を行った。

6-4 サイエンス・アドベンチャー・スクール (SAS)

サイエンス・アドベンチャー・スクール (SAS) は播磨科学公園都市にある播磨高原東小学校にSPring-8の研究者をはじめ、科学の分野で活躍する方々が出向き、科学技術についての実験を含めた授業を行うもので、1999年度から実施している。対象学年は3年生～6年生である。2007年度は、JASRI理事長が講師となり、「光を作ろう」というテーマで授業を行った。本授業は、光を構成している色の学習で、発光ダイオードの赤、青、緑の光が合わさると白色になる「光の3原色」の実験などを行い、生徒たちは光

の不思議や性質を学んだ。

6-5 展示会への出展

展示会への出展は、企業や一般の方々を対象にSPring-8の理解を深め、SPring-8を利用して得られた成果や利用の方法を紹介し、利用者を増やすことを目的としている。

2007年度は、青少年のための科学の祭典2007（西はりま会場大会、8月4日）、科学体験館サイエンス・サテライト（11月1～11日）、未来科学技術情報館でのSPring-8特別展と講演（11月13～22日）、日本放射光学会におけるポスター展示（1月13～14日）、及びNano Tech 2008国際ナノテクノロジー総合展・技術会議（2月13～15日）に出展した。これらの出展では、パネルに加えて加速器模型なども展示し、分かり易い紹介に努めた。

7. まとめ

2007年度の広報活動を通して、以下のような課題が抽出された。これらに的確に対応し、より効果的な広報を目指すことが急務である。

見学者受け入れに関して、SPring-8の産業利用が着実に増加する中、企業や地方自治体など産業用ビームラインの見学を希望する団体が今後益々増えるものと予想される。将来のユーザー獲得の面でもこのような団体への的確な対応は重要であり、今後も産業利用推進室と協力体制を整える必要がある。

ウェブは強力な広報手段であるが、SPring-8のホームページは必要な情報が探しにくいという読者からの意見がある。必要な情報に迅速かつ適確にたどり着けるよう、トップページの構成及びウェブ構造（コンテンツの分類）を見直し改善することが今後の課題である。

広報室 木村 豊秋